正義卜悪~justice~

焔涙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト http://pdfnovels.net/

注意事項

囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、 は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。 この小説の著作権は小説の作者にあります。 このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ 小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。 そのため、作者また 引用の範

【小説タイトル】

正義卜悪~justice~

Zコード]

【作者名】

焔涙

【あらすじ】

世界を救うため、僕ら二人は生まれた。

最初から仕組まれた人生。

退屈な日常。白黒の世界。

けれど、 君と出会って・

戦の始まりは齢15の春。そんな中生まれたイレギュラー。世界を救うため僕ら二人は生まれた。最初から仕組まれた-最初から仕組まれた人生。

『さだめ』

戦の始まりは15の春。 何百年も前からの宿命。

ぼくらはいつも二人だった。

それ以上などありえなかった。

だって巻き込むわけにはいかなかった。

辛い思いをさせるだけだから。

だけど13の春。君は突然現れた。

僕らがつくった小さい壁など

簡単にぶち壊し現れた。

世界を救うためだけだったはずの人生が、 少しずつ狂い始める。

君は一瞬で僕らの世界を変えたんだ。

君に見せたあの笑顔が、 僕ら二人の初めての笑い顔だった。

銭

そしてやってきた15の春。 学校を休む日が増えていく。

誰もそれに気づかない。

僕ら二人が望んだこと。

だけど君だけは気づいてくれた。

辛い思いをさせるかもしれないけど。

君には心配かけるけど、心のそこでは嬉しかった。

それでも気にかけていてほしい。

白黒だった世界が、鮮やかに動き始めたんだ。君は一瞬で僕らの世界に色をくれたんだ。今は願いばかり増えるんだ。我がままなんて考えたこともなかったのに、

自分が壊れそうになっていく。どこにも行けない思いが降り積もり、だって昨日まで笑っていたのに・・・。とても悲しかったけど、それ以上に怖かった。ある日仲間の一人が死んだ。

顔を上げると君の家。自分でもどこに向かうか分からぬまま、降りしきる雨の中、ふと歩き出して、

君はずぶぬれの僕に理由も聞かず、震える僕の肩をそっと抱く。 「大丈夫だから。

君はそう言った。

涙があふれて、 止まらなくて、君は黙って傍にいてくれた。

僕らはそのときも二人だった。 戦の終わり』 辛い思いをさせないために。 絶対に負けるわけにはいかなかった。 だけど君が待っていてくれるから。 そして雪積もる18の冬。ついに黒幕にたどり着く。

黒幕は美しい服を着た仮面の女。

仮面をとると、そこに居たのは君だった。 歳は僕らと同じくらい?

どうして君に救われてしまったのだろう。 君がくれたあの笑顔は、 君の冷酷な瞳が、痛いほど突き刺さる。 どうして僕ら出会ってしまったのだろう。 僕らの幻だったの?

君は躊躇いもせず、僕らに襲いかかる。

想像以上に強かった。

僕らが躊躇っているだけかな・ 歯が立たないかもしれない。

?

辛いのは、 僕らだけなのかな ?

君は僕らと闘うのをやめ、 前を見据える。

君の優しい瞳が戻った気がした。 「じゃあね。

君は自分に刃を突き立てる。

「どうして?」

涙があふれてくる。 どうして君だったの?

きっと来世出会えたときは、あの日に帰れるのならば・・ ずっと一緒にいられるはず。

戦の終わりは齢18の冬。 世界を救うため僕ら二人は生まれた。 それぞれの道を歩き出す。 最初から仕組まれた人生。

君と居た時間を忘れずに・

(後書き)

難しいですね・・・・・・短編を書いてみました。戦記なんでしょうか・・ ?

PDF小説ネット発足にあたって

ビ対応 などー 行し、 公開できるように 小説家になろうの子サイ 部を除きインター 最近では横書きの F小説ネッ の縦書き小説 ています。 の縦書き小説 そん をイ を思う存分、 たのがこ な中、 ネッ 書籍も誕生しており、 タテ書き小説ネッ ト関連= 誰もが簡単にPDF形式 ネッ て誕生しました。 ト上で配布す 小説ネッ 横書きという考えが定着しよ てください。 トです。 既 は 2 0 存書籍 の タイ いう目的の基 07年、 の電子出版 小説を作成 小説が流 ンター

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。 http://ncode.syosetu.com/n6852v/

正義卜悪~justice~

2011年11月15日13時59分発行